

国内実態調査報告書

テーマ : 浜松市における多文化共生への取り組みを学ぶ
ゼミ名 : 舟木 律子ゼミ
調査日 : 2022年9月4日(日)～9月6日(火)
調査先 : 静岡県浜松市
授業科目名 : 演習Ⅰ・国際教養演習Ⅰ
参加学生数 : 演習Ⅰ 23名(3年生)、国際教養演習Ⅰ 1名(3年生)

調査の趣旨(目的)

静岡県浜松市には、自動車やオートバイ等の製造業の生産拠点が多数あり、多数の外国人労働者がその生産を支えている。特にブラジル国籍の住民が1万人弱、ペルー国籍の住民が2000人弱で、南米系住民の居住地域としては国内最大規模である。背景には1990年に改正入管法の施行によって多くの日系人が来日するようになったことがある。

日本政府の外国人受入施策では、「労働者」としての側面だけに焦点があたり、「生活者」としての視点が欠如していた。そこで実際に生じた文化の違いや共生の視点の欠如に起因する多様な問題に、同市の行政や企業、日系人自身がどのような取り組みをしてきたのかを調査する。

調査結果

実態調査での訪問先と調査概要は以下のとおりである。

- ①在浜松ブラジル総領事館主催音楽文化イベント「ブラジリアンデー浜松2022」
(9/4午後)
- ②南米系外国人学校ムンドデアレグリア(9/5午前)
- ③外国人学習支援センター(9/5午後)
- ④セルヴィツ(9/5午後)
- ⑤有限会社伸栄総合サービス(9/6午前)
- ⑥浜松市国際交流協会(HICE)(9/6午後)

①サンバやカポエイラ、ボサノバ等、ブラジルの多様な文化パフォーマンスの鑑賞、さらに浜松だけでなく全国から多数集まった日系ブラジル人の観覧者らがイベントに文字通り参加する熱気の中で、日本との文化の違いを感覚的に学ぶことができた。

②日系ペルー人と日系ブラジル人の子どもたちが学ぶ同校で、授業の様子を見学し、校長の松本先生よりゼロからスタートしたムンド学校設立の経緯や教育方針、これまでの学校運営の歴史、現在の課題等についてお話を伺った。日本と南米、二つのルーツを大切にしながら、子どもたちを中心に据えた教育を提供するために多くの課題を乗り越えながら今に至る同校の取り組みから、「多文化共生」の取り組みをより具体的に学ぶことができた。

③外国人向けの日本語日本文化学習の支援について、事業コーディネータの河口様より

その取り組みを学んだ。ここでは日本語教育への支援に限らず、防災や日本人ボランティアの参画の重要性についても学ぶことができた。

④90年代初期よりブラジルレストラン兼食材スーパーの創業者の孫にあたるニノさんから話を聞いた。セルヴィツォがこれまで発展してきた経緯、孫の目から見た祖父の仕事への姿勢、二つのルーツを持つことの意味等、学生たちと同世代のニノさんと学生との対話形式でお話を聞くことができ、非常に有意義であった。

⑤ブラジル人を中心とする外国人の就労支援事業を展開する人材派遣会社を訪問した。同社は労働者派遣事業だけでなく、外国にルーツのある幼児のための保育園や同じく障がい者向けの自立支援事業なども取り組んでおり、それらの施設の見学と、加藤社長から創業の経緯や、これまでの取り組みについてもお話を伺うことができた。学生からは「自分が仕事をする時もその仕事の先には誰の笑顔、喜びが待っているのか考えられる、人の役にたてる仕事につきたいと思った」といった感想も寄せられた。

⑥浜松市における多文化共生のまちづくりについて、その最重要機関である HICE の多文化共生コーディネータ松岡様より、事業概要、これまでの事業の発展経緯等について、現場の体験に基づく具体的なお話を伺った。学生からは、以下のような感想が寄せられた。

「特にリーマンショック後の日本における外国人労働者への待遇悪化によって、日本が初めに外国人労働者を受け入れる際の姿勢の間違いが明らかになったという説明が印象的でした。当時の日本での外国人労働者受け入れの目的は主に、人手が足りない製造業における労働者を穴埋めすることであり、多文化共生社会の実現に向けた関係構築ではなかったがゆえに、リーマンショック後の景気悪化に伴う雇用の減少によって、外国人労働者の多くが解雇されてしまい、実際に HICE の相談窓口に人があふれてしまったという話や、多くの外国人労働者の家庭が、夫婦共働きで派遣労働に従事していたため、一斉解雇によって働き手が家庭内にいなくなってしまい家庭内で不和が生じ、立場の弱い子供にその矛先が向くことなどがあったため、子供がそうした影響を受けて精神的に追い詰められてしまった事例などの実際のエピソードを聞いて、やはり目的をしっかりと定めてその方向に向けた支援が行われていない建前だけの状況では多文化共生社会の実現は難しいのではと思いました。」

今回の実態調査を通して、学生たちは浜松市の多文化共生の現場を視察し、その声を凝縮した形で聞くことができた。日本社会が「日本人」や「外国人」に関わらず、すべての人の多様性が活かされるような社会となるよう、今回得た「気づき」や問題意識を、残りの大学生活、さらに社会人として生かして行ってもらいたい。



ブラジリアンデー浜松 2022 にて



浜松のブラジルレストラン&輸入食材セルヴィツォ様にて



浜松国際交流協会様にて